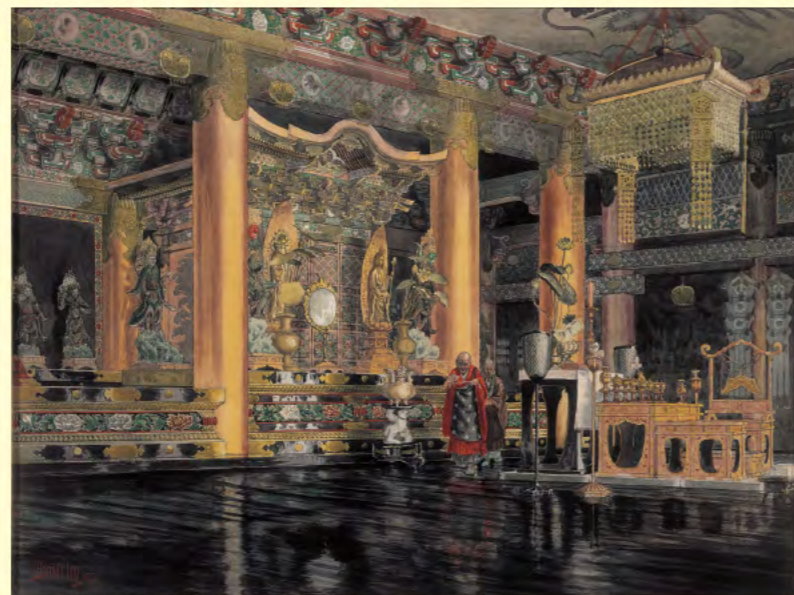




12 《東照宮・陽明門》



14 《おまつ像》1901(明治34)年頃  
※12月5日から展示



13 《日光 本地堂(業師堂)》 ※12月3日までの展示



15 《収穫》

## 小杉放菴記念日光美術館

### 交通案内 Access

- ◎電車  
東武日光駅、JR日光駅から清滝・細尾、中禅寺・湯元、西参道(東照宮)方面行きバス5分。神橋停留所より徒歩3分。
- ◎車  
日光宇都宮道路・日光インターから約2km。
- ◎駐車場  
併設の市営駐車場をご利用ください。美術館受付で駐車券を提示していただくと、1時間まで無料となります。  
\*休日、美術館周辺はたいへん混み合う場合がございますので、時間には余裕をもってお越しください。



百花繚乱、ふたたび。



《オオサクラソウ》一九〇一—一九〇五年頃 水戸市立博物館寄託

2017年11月11日[土]—12月24日[日]

休館日●毎週月曜日

入館料●一般720(640)円、大学生510(460)円、高校生以下は無料

開館時間●午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

※( )内は20名以上の団体割引料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方とその付き添いの方1名は無料となります。

※第3日曜日「家庭の日」(11月19日、12月17日)は、大学生は無料となります。

※会期中、一部作品の展示替がございます。

主催＝公益財団法人 小杉放菴記念日光美術館／日光市／日光市教育委員会

後援＝下野新聞社 特別協力＝水戸市立博物館

KOSUGI HOAN  
MUSEUM OF ART,  
NIKKO

小杉放菴記念日光美術館 〒321-1431 栃木県日光市山内2388-3  
☎0288-50-1200 <http://www.khmoan.jp>

開館二〇周年記念  
没後一一一年

# 五百城文哉「高山植物写生図」の世界

い おき ぶんさい  
**五** 百城文哉(1863~1906)は、小杉放菴の師であると共に、洋画の黎明期であった明治期に活動していた画家の一人として知られています。とくに2000年に小杉放菴記念日光美術館と水戸市立博物館で大規模な回顧展が開催されて以来、克明な風景画や肖像画に代表されるその作品は、年々高く評価されてきています。

なかでも五百城の評価を高めているのは、高山植物を中心とする、植物学的な知識に基づきながら精細に描かれた植物画の数々でしょう。五百城文哉は、農商務省山林局で標本の仕事にたずさわった後、日光に住まいを移してからは、本格的に植物の研究に取り組むようになります。現在残されている植物画の多くは、植物研究の同好者たちからの依頼によるものと推測されていますが、標本としての役割を果たすだけに留まらない、高い芸術性を持っており、描かれてから100年以上経った今でも、その色鮮やかな色彩は私たちを魅了してやみません。

本展は、小杉放菴記念日光美術館の開館20周年と、五百城文哉の没後111年を記念して、五百城の植物画のなかでも最も人気の高い、《高山植物写生図》(個人蔵)約100点を一堂に会するべく企画されたものです。また今回の展覧会では、《高山植物写生図》とあわせ、当館が開館以来収集してまいりました五百城文哉の全作品を、寄託作品と資料、および県内美術館コレクションとあわせて展示することで、日本におけるボタニカル・アートの先駆者であり、明治洋画の傍流のなかで真摯に制作を続けた洋画家、五百城文哉の実像を浮き彫りにすることを目指します。



1 《ポウラン》



2 《シナノキンバイ》



3 《ヒメシャジン》



4 《ハマギク》



5 《トラキチラン》

所蔵先  
 1-5=水戸市立博物館寄託(高山植物写生図) 1901-1905年頃作  
 6-7、9、11-12=小杉放菴記念日光美術館  
 8、13-14=栃木県立美術館 10、15=宇都宮美術館  
 すべて水彩画



6 《滝尾神社・鳥居》



7 《四本龍寺・三重塔》



8 《百花百草図》1903(明治36)年頃

## 会期中の催し物 Event

### ◎担当学芸員によるギャラリー・トーク

日 時 ●11月26日(日)、12月23日(土・祝)  
 午前10時30分より(1時間程度)

参加方法 ●入館券をお求めのうえ、  
 お時間までに受付前にお集まりください。

### ◎ワークショップ「ボタニカル・アートに挑戦!」

講 師 ●下田佳代子氏(植物画家)

日 時 ●12月3日(日)午後1時30分より

対 象 ●小学5年生から一般

会 場 ●小杉放菴記念日光美術館 体験実習室

申込方法 ●11月13日(月)午前9時から電話で受付開始  
 必用なもの ●鉛筆、透明水彩絵具セット、スケッチブック

参加費 ●720円(展覧会の観覧料も含まれます)

※詳細は美術館ホームページでもお知らせいたします。



9 《駕籠かき》



10 《日光東照宮図》



11 《東照宮・五重塔》